
ちびライダー ' s と同居中！

金柑レモン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちびライダー's と同居中！

【Nコード】

N1962V

【作者名】

金柑レモン

【あらすじ】

ある日、超ライダーヲタクの柵居 知香の元にやってきたちびライダー's！

彼らはTVの向こう側のライダー達とは別人らしい……。

じゃあ、一体何！？

ヲタ+ちびライダーの不思議な生活が始まるよ！

はじまりは、いつも突然♪

榊^{ますい}居^{ちか} 知香。24歳、独身OL、都内某所のマンションに1人暮らし。

そして

超が付く程のライダーヲタク。

そんな彼女の元にある日……

推定、縦60cm、横30cm、抱っこサイズの平成ライダー達がやってきた！

彼らのおかげで知香の平和な生活は乱されていくのであった……。

「な……なんじゃこりゃー！ー！？」

えっ？えっ？どうゆうこと？あたし聞いてない！！

あたし、榊居知香。昨日まで普通に1人暮らししてました。

なのに今日起きたら……あたしのベッドの上で12個の物体がうつめいている。

しかも、よく見れば、かの有名な平成仮面ライダーなんですよ。

「いや、待てよ。これは夢だ。こんな幸せなことが実際あるハズ無い。うん、そうだ。」

一応、冷静になってみた。

にしても、いくら夢だとは言え……カワイ〜！

何この（推定）縦60cm、横30cmの抱きしめると言わんばかりのサイズは！

あつ。ちなみに、あたしかなりの平成ライダーヲタです。

DVDは本編はもちろん、SP版や劇場版、イベントのもフルコンプリート。

パソコンとケータイの壁紙はディケイド。

部屋にコレクションが溢れているから、ヘタしたらそれに埋もれて窒息死するかも知れない。

でも、それはそれで幸せ。

おっと、話がそれた。

たとえば夢でも、目の前に大好きなライダー達が居ます。

これは……もう……

抱きしめるしかないだろう!!!

「キヤーー！クウガアギト龍騎ファイズ^{ブレイド}剣響鬼カブト電王キバデ
イケイドWオーズ!!!全員まとめて愛してやる！」

と、言っで抱きしめましたが。

彼らはちっちゃくても、ライダーです。

ええ。もちろん

蹴られましたよ。（ファイズとM電王に）

やっぱ、結構痛い。

でも、これ夢じゃない！

……夢じゃ無ければ何なんだ。

ぬいぐるみじゃないだろう。（動いてるし、固いし。）

「あなた方は一体何ですか!?!」

敬語になってるし。

そしたら、声を合わせて、

『仮面ライダーです。』

はじまりは、いつも突然♪（後書き）

いきなり始まった突拍子の無い小説ですが、少しでも、面白いと思
って頂けたら、嬉しいです。

そして、次回も見てくれたら、もっと嬉しいですw w

でわ、この辺で……。

運命の出会い……？（前書き）

目が覚めたら、何故かベットのの上に12人のちっちゃいライダー達
が！

「あなたは、一体何者ですか！？」

『仮面ライダーです』

運命の出逢い……？

いや、そうなんだけど！それは分かってるけど！

「あの、あたしが知りたいのはそうゆうことでは無く……。」

「！！！」

ク「A New Hero・A New Legend・仮面ライダークウガ」

ア「目覚める、魂！仮面ライダーアギト」

龍「戦わなければ生き残れない！仮面ライダー龍騎」

ファ「疾走する本能！仮面ライダーファイズ」

剣「運命の切り札をつかみ取れ！仮面ライダーブレイド」

響「僕達にはヒーローがいる 仮面ライダー響鬼」

カ「天の道を行き総てを司る！仮面ライダーカブト」

電「時を超えて俺、参上！仮面ライダー電王」

キ「ウエイクアップ！運命の鎖の解き放て！仮面ライダーキバ」

デイ「平成ライダー？十年早えよ！仮面ライダーディケイド」

W「俺達（僕達）は2人で1人の……」

「仮面ライダーでしょ！？それとオーズは俺が変身する！……それは分かってるから！」

名乗りはカッコイイけど今の問題はそこじゃない！

W・オ「……………」

龍「あつ！Wとオーズが台詞取られて凹んでる！」

「えっ？……ホントだ……ごめん。」

って！何得体のしれないものに謝ってるの、自分！？

するとWが何かをつぶやいているようだ。

ア「分かればいいって言ってますよ。よかったですね。」

うつ……やめて。そんな目（複眼？）で見ないで……。

ア「そ〜だ！今日からここに住むことになりました〜。よろしくお願ひします！〜」

……はい？住む？ここに？

「えええええええつつつ！！？？」

てか、さすがアギト。凄いタイミングで言ったな。

デイ「うるさい……良いだろ、別に。減るもんじゃないし……。」

「あたしは……別に良いけど。」

あたしの理性が、ね……持つかな？

ク「じゃ、よろしくお願ひします！！」

なんてサムズアップしながら言うもんだから……。

……………プチン。

「クウガーーーーー！！愛してるーーーーー！！！！」

思いつきり抱きしめる。

しばらくして、キバとオーズが腕をぺシぺシ叩いてきた。

「ん？なに？」

キ「あの……クウガさんが……。」

オ「窒息してますよ……？」

腕の中でぐったりとしているクウガ。

「え。……ぎゃーーーーー！？ごめんクウガ！お願いだから死なないでーーーー！」

ク「大……丈夫……アークルには、自己再生能力が……あるから。」

「ごめん。ほんとごめん！」

「こんな感じで、あたしとちびライダー、sとの同居が始まりました」

龍「ちなみに、君の名前は？」

「梶居 知香だよ。」

剣「知香ちゃんか。良い名前だね！」

「……ありがとう。」

運命の出会い……？（後書き）

第2話でいきなりgood goodに。

こんな感じでやっていきますので、よろしくお願いします！

知香的ムービー大戦感想（前書き）

ア「そ〜だ！今日からここに住むことになりました。よろしくお願ひします！」

……はい？住む？ここに？

「えええええええつつつ！！??」

と。まあ、そんな感じで同居生活が始まりました。

今はみんなでファイズのDVDを見ているようだけど……！！？

知香的ムービー大戦感想

「うあああああ！沙耶ちゃん死んだあああ！何で！？別に沙耶ちゃん殺されるようなことして無いじゃん！！！」

デイ「うるさい……。」

「うるさいとは何よ！沙耶ちゃん死んじゃったのよ！？イイ子だったのに……。」

デイ「いちいち感情移入し過ぎだ。ゲストキャラでそんな状態ならレギュラーならどうなるんだ？」

「ボロ泣き。ちなみに、2年連続MOVIE大戦で泣いたよ！」

デイ「……！」

「士が死ぬシーンは泣いたな。」

龍「あつ！デイケイド照れてる。」

「後は……555かな……。」

ク「やめて！それには触れないであげて！」

「そう言えば、最終回で剣崎出て来たけどアレ何？ファンサービス？」

剣「俺に聞かないで!？」

「コアの方は、おやっさんがスカルの姿のまま電話取ってるところで、うるうる来てた。」

W・Jサイド「コアの魅力はなんていったて、おやっさんの活躍だろう！」

「オーズパートはノブ君の「この花を、あの子に渡してくれる？」がツボ。隣の男の子に引かれる程泣いた。」

オ「あそこはね。」

「ところで、あの後すぐMOVIE大戦パート入って、最後映司ブラジルに出たじゃん？あの百合絶対渡せて無いよね？」

オ「……………」

「そのあとの、バースの変身音のカポーンは別の意味で泣きたくなった。」

ファ「あのシーンはほとんどの人唖然としたんじゃないか？」

「それに、装着者がどこから湧いて来たんだ後藤さん。」

キ「知香さんて、結構つつこんじゃいけない所ツツコミますよね……。」

「まあね。だから、来年は楽しみにしておいてね。オーズ&フォー……いや、13代目のライダーさん。」

オ「……コワッッッ」

知香のムービー大戦感想（後書き）

はい、映画ネタ。

知香はキャラに感情移入し過ぎて、キャラに恋しちゃったりと大変です。特に、怪人なんかに恋した日にゃあもうww

私も何回ファイズ見ても沙耶ちゃん死ぬトコで騒ぎます。てか、出て来た時点で、

「ああ。沙耶ちゃん死んじゃうよ。やだよ。」とか言っています。

ライダー映画を見に行って、隣でボロ泣きしている子が居たら、そっとしておいてあげて下さい。多分私です。

ライダー'sの目覚まし大作戦！前編（前書き）

前回とんでもないメタ発言を繰り返した知香。
その攻撃にライダー達もタジタジ！

でも、今回そんな知香が大変なことに……！？

ライダー、sの目覚まし大作戦！前編

ディ「えー。本日、大変な事態が起きました。主役兼ナレーター兼ツッコミの知香が……起きません。ちなみに今、午前10時です。」

キ&P電「知香さん起きてー。」

龍&剣「知香ちゃん起きろー。」

響「乙女ー？そろそろ時間だぞー？」

ディ「こんな感じで5人がかりで目を覚まさせようとしていますが……。」

ファ「あゝあ。こりやダメだな。もういつそ今回知香抜きでやるか？」

剣「えー？でも主役だよ？」↑知香のほっぺプニプニ中

ディ「確かにナレーターもいないと不便だし……。」

ク「アレ？さっきまでディケイドがやってなかった？」

ディ「飽きた。」

ファ「早！？」

響「じゃあ、今回『乙女を起こせ大作戦!』でもやるか!」

『さんせーい。』

オ「その前にナレーター決めよう。」

W・Jサイド「どうやって?」

龍「ここはあみだで!」

〈ナレーター決定中〉

キ「あみだの順番で龍騎とブレイドがもめたり、響鬼の八百長がばれたりと色々ありましたか、その結果……。」

ファ「何故に俺だし……。」

オ「ホントこうゆうことに関しては運無いよね、たつくん。」

ディ「じゃ、企画始めるぞー。」

ファ「今回はそれぞれの技を使い……技?」

ア「細かい事は気にしない!」

ファ「知香を起こそうと言う企画デス。」

P電（うわ）。ファイズかなり落ち込んでる。）

ク「では一番はこれもありだの結果、キバです！」

キ「は、はい！よろしくお願いします。」

ク「キバさんは一体どうゆう技を繰り出すのか！？」

ファ（俺よりクウガの方がよっぽど仕事してるよな……。）

キ「えっと、あの、これで……。」

ア「おおっと！何処から取り出した、ブラッティ・ローズ！」

ファ（アギトも参戦したよ！？）

キ「と、とりあえず、交響曲第一番弾きます。」

♪♪♪

キ「おわりデス。」

『おお——！』

ファ「確かにすばらしかったよ。だがな……余計深い眠りに誘って
どうする!!」

キ「ごめんなさい!!」

続く。

ライダー'sの目覚まし大作戦！前編（後書き）

まさかの続く！

次で完結したいな。この話は……。

ちなみに響鬼さんが「乙女」呼びなのは仕様。

ライダー、sの目覚まし大作戦！後編（前書き）

なんかまあ、色々あってちびライダー、sの目覚まし大作戦が始まりました……。

ファ「ライ！とうとう作者までもが説明投げたぞ！？」

ア「えーと、知香ちゃんが起きないとツツコミとナレーターが居なくて不便だ！と言うことでなんとかして起こそう！ってゆうのが前回までのお話。」

ライダー、sの目覚まし大作戦！後編

龍「次は俺だな！っしやあ！やるぞ。」

ファ「やる気満々だな。」

龍「あのさ、こないだ作者が青空さんの感想に変身」剣「そこ返信だよな？」

龍「した時に知香ちゃんは眠り姫のように寝る。って言ってたから……眠り姫を起こすのは……王子様のキスだよな！」

キ（なんか嫌な予感しかしない……。）

龍「と言うことでさっそく知香ちゃんにキスを……！」

キ（やっぱり……！）

ディ「落ちつけ！色々と落ちつけ龍騎！」

カ「お前もな。」

ファ「この後、龍騎は止めに入ったディケイドのディメンションキックを喰らってしばらく機能停止しましたとさ。」

龍「たつくん何不吉なナレーション入れてるの！？」ファイナルアタックライドディディディケイド！」ウワッちょっ……FARはやめてー……！」

ファ「次行くぞー。」

龍「」

ア「うごかない ただの しかばねのようだ（笑）」

ク「アギト遊ばないの！」

響「いやゝ。これまた何の因果か次ブレイドなんだよな。」

剣「そーなんだよな。不思議不思議。」

ア「どういう技で起こすつもり？」

剣「そりゃあ、もちろんスパークで……。」

ファ「やめい！」

ファ「その後の結果。」

・アギト&カブト 美味しい朝ごはんの香りで起こしてみよう！
失敗

・響鬼 いつも通り音撃で起こして（ry 失敗

ファ「そしてついに作者大本命のクウガ！」（アレ、なんか楽しくなってきた？）

ク「そう言うのを世間では振り切ったって言うんだよ。まあいいや。今回は2010個目の技で『少女漫画風に誰かを起こす』を使います。」

オ「そんなのあるんだ……。」

W・Jサイド「『少年漫画風に誰かを起こす』もあつたぞ？」

ク「ここは恋人の部屋。でも、その恋人は行方不明。知香ちゃんはその人をこの部屋で待ち続けている。って設定で。」

カ「少女漫画設定か？それ。」

ク「では、行きます。……知香、ごめんな？ずっと待たせて。これからは最期の瞬間まで一緒だからな……。」↑知香の手を握る。

P電「……グスッ」

剣「電王泣いてるよ。でも確かに感動的だ。」

「んっ……。」

響「おっ、乙女が起きそうだ。」

「う…………ウワァァ!!」

『!?!?』

「はぁ…………はぁ…………ビックリした。あ、おはよう。」

オ「ど、どうしたの?」

「えつとね、ウヴァがラスボスでオーズに変身する夢見たの。」

デイ「結局知香を起こしたのはウヴァ……………と言ったことか。」

ファ「2回分引って張って最後はこれかよ!!!!!!」

オ「なにがしたかったんだろう、一体…………。」

ライダー'sの目覚まし大作戦！後編（後書き）

まさかのウヴァさん。まさかのオチ。

ほんと何がしたかったんだろう……。……。

だってあたしもお年頃だもん！B y 知香（前書き）

前回、前々回と眠り続けた主役兼ナレーター兼ツツコミ。

「2回分ほとんど寝てたのは謝るからせめて名前で呼んで！」

そんな彼女の想い人とは？

だってあたしもお年頃だもん！By知香

「ねえオーズ。恋愛コンボってどうやるの？」

オ「ああ、それなら……え？」

剣「あの、今なんて……。」

龍「恋愛ってアレ？あの、恋と愛って書くヤツ！？」

あんたら、あたしが恋することがそこまで意外か。

剣「知……知香あああ！お父さんは許しませんよー！！」

龍「そうですよ、知香！あなたにはまだ早いわ！」

……目の前で家族ドラマごっこやってる赤と青のライダー殴っていいですか。

響「まあ、乙女ももう大人なんだし良いんじゃない？」

響鬼さんナイス！

龍「お兄ちゃんまでそんなこと言って……知香が心配じゃないの！？」

お兄ちゃん！？

「……あたしはいつあんたらの娘になった……！！！！！！」

龍「！ 知香……そんな風に思ってたの……？ 24年間大切に育てきたのに……。」

剣「知香！ 今のは言い過ぎだぞ。 母さんに謝れ！」

ええええええええ。 これいつ終るの？ どうやったら終るの？？

W・Jサイド「ウザい。 あと、収集付かない。 いくぞフィリップ。」
W・Cサイド「分かったよ。 翔太郎。」

サイクロンジョーカーエクストリーム！

剣「」

龍「」

ア「うごかない ただの しかばねのようだ（笑）」

ク「アギトそれはまったでしょ。」

P電「ところで、肝心の知香ちゃんの好きな人って？」

『あ。』

うん。みんな期待に満ちた顔でこつちをみるな。

「……オーズの」

ア「誰誰？」

ク「映司くん？アंकくん？それとも刑事さん？」

デイ「5103かもな。」

キ「伊達さんとか……？」

響「いや、案外、真木博士かもよ？」

ファ「カザリとかグリード組もアリそうだな。」

「……ギル様。」

『え。』

だってあたしもお年頃だもん！B y知香（後書き）

知香の名言「ギル様は中身じゃない！ガワなのよ！！」

つまり、中身がD r・真木だろうと映司だろうとギルであればいいらしいw w

私はこれからも知香の恋の行方を追っていきたいと思います！w

とりあえず、たつくんもといファイズニヤピン賞。

家族ドラマごっこはブレイドがパニックって始め、龍騎がそれに乗った感じ。

あの2人ならやりかねない。

そしてアギトが妙なことはまってしまいました。

どうしましょう。

よくあるよね、じつじつと（前書き）

今回は少しミステリ風味？

知香のバックに知らないメダルが……。

そこから事件に発展！？

???「アイツが……アイツが悪かったんだ！だから、罰を与えたんだ！！」

犯人の正体とは！？

デイ「嘘をつくな！今回もゆるいコメディーだろうが！こんな殺伐とした内容じゃないだろ！」

嘘です。通常運転デス。ただメダルのくだりまでは本当です。だから許して下さい。

よくあるよね、じつじつと

「うああああああ！」

『どうしたー！』

「みみみ……見たことないプテラメダルがバックの中に……！？オズお前か！お前のだろ！」

オ「落ちついて！第一、俺のベルトとそのメダルの大きさ違うから！」

W・Jサイド「重さからすると……玩具菓子モノでは無いな。」

W・Cサイド「QRコードも無い様だし。」

ア「じゃあ、ガチャ特有の3つの星マークは？」

「無い……かな？」

P電「それなら、玩具版？」

カ「いや、玩具版はコレクションの中にちゃんとあるから違うだろう。」

………ミステリー！

キ「知香ちゃんのことだから落ちていたプテラメダルを見つけて可

哀想に思っ て拾っ てバツクに入れたんじゃ!？」

ファ「あー……確かに、知香は前科持ちだもんな。」

知香ちゃんの前科

- ・落ちたいたガンバライドカードのガタツクを可哀想に思い拾う
- ・売れ残っていた仮面ライダーズのデイクイドコンプリートフォームとデイエンドと目が合い、可哀想に思い購入（両方2体目）

……何嬉しそうにフリップ作っ てんだ半分こ怪人め。

龍「そう言えば、知香ちゃんのいともオーズベルト持っ てなかった？」

「うん、まあね。でもアイツが持っ てるのスタンダードなタカ、トラ、バツタ、カマキリだよ?」

ちなみに他のメダルは、当時売り切れ続出で手に入らず今は中古屋を巡っ て少しづつ集めてい るらしい。

響「他に心当たりは……。」

「うーんうーん……。」

ホントお前はなんなんだろうな。プテラちゃん。

プテラメダルを光に透かす。

あっ……!?

「これ、ガチャ版だ!!」

『えっ!?!』

「光に透かしたら星マーク見えた!」

ク「でも、ガチャ版もプテラは持つてるんじゃない?」

あ「ーっ!思いだした!

「確か、イマジンメダル欲しかった子とトレードしたんだ。イマジン3枚目だったから!」

『……ちーかー(ちゃん)??』

あは、あはははは。

「だって紫メダル星マーク見つげづらかったんだもん!!」

よくあるよね、こつこつこと（後書き）

半実話。というか8割実話。みなさんも同じこと……やりましたよね？

お願いします。やったと言って下さい。
言い訳は知香と同じです。

楽しいクリスマス計画！前編（前書き）

街もクリスマススムードになってきました。どうやら柵居家でもクリスマスを楽しむ様です……。

「たまに、『サンタさん！ステキな王子様に出逢わせて！』って言うてるけどさ、もう古いの？白馬の王子様は。」

キ「まあ、確かに……。」

「個人的には『白馬』より、『バイクに乗った王子様』が良いな。まあ、もう叶ってるけど。」

キ「それは、もしかして？」

「そうだよ。君たちのことだよ。」

キ「……………！」

「これからよろしく。バイクに乗った王子様達♪」

楽しいクリスマス計画！前編

「さて、クリスマスまで1カ月を切ったと言うことで！クリスマスツリー出しますか！」

『イエーイ！』

「つーわけで、ディケイド。あんたクウガのドラゴンにカメンライドしろ。」

ディ「はあ！？」

ク「な、なぜ！！」

「実はツリー棚の上にあつてさ。取りにくいんだよね。」

ク「でも、ソレ俺で良いんじゃないの？」

「クウガにはやってもらうことがある。そこで待機してて。」

だつて。その棚つてあの部屋にあるんだもん」

「じゃ、行つてらっしゃい。生きて帰つてこい。」

龍「なんか最後に凄い不吉なこと言った！」

ディ「ああ。任せとけ。」↑カメンライド済み

（3分後）

ディ「うわあああ!??」

W・Jサイド「なんだ、なんだ!!」

あゝやっちゃったか。

「クウガ、奴の救出に向かってくれ。」

ク「アイアイサー!」

くさらに2分後く

ク「つ……疲れた。」

ディ「なんなんだ、あの部屋……。」

「あの部屋は私のコレクション部屋です。少しでも振動を与えるとコレクション達が山崩れのように落ちてきます。」

ディ「先に言え!」

ちなみに、何故クウガが救出班なのかというと、最終回1話前の雪山で遭難しなかったからです。

ク「でも、ディケイドすごいよ。埋まってたけどちゃんとツリーは離さなかったもん。」

「ありがとう。ディケイド。これで今年のクリスマスは安泰だ。」

ファ「でもどうして自分で行k……何でもない。」

「去年、自分で取ろうとして埋まって半日はその状態でクリスマスもツリーもないんだよ……になったの。ぶっちゃけ、死ぬかと思った。」

デイ「俺も死にかけたけどな!!」

「さ、ツリー飾りつけよう。」

『おー!』

デイ「聞けよ!」

でわでわ、ツリー（の箱）オープン!

響「……乙女、何故ツリーの箱にライダーベルトが入ってるんだ?」

「え?ソレを飾り付けるんだよ?だから箱に入れてるの。」

剣「待つて。何でベルトを飾るの。」

「好きだから。」

P電「理由になってるようでなっていないよ?」

「まあ、ほら、細かい事は気にしない!みんな自分のベルト見つけて飾りな!」

カ「細かいことか?」

「よし、気合い入れていくぞ！」

『おー！』
↑ 半分やけくそ

楽しいクリスマス計画！前編（後書き）

♪もう～幾つ寝ると～クリスマス～♪

はい、レモンです。今年のクリスマスはフォーゼのキャラデコが気になってます。チョコクリームも出たんだよね、確か。

去年はオーズドライバー＆メダル品切れで凄かったけど、今年のフォーゼはどうなるだろう？

にしても、ライダーツリーはマジでやりたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1962v/>

ちびライダー's と同居中！

2011年11月24日16時56分発行